



2026年2月13日

各位

会社名 株式会社アプリックス
代表者名 代表取締役社長 倉林 聡子
(コード: 3727、東証グロース)
問合せ先 IR・コーポレート推進部部长 岩井 俊輔
(TEL. 050-3786-1715)

通期連結業績予想と実績値の差異及び個別業績の前期実績との差異並びに減損損失の計上に関するお知らせ

2025年2月14日付で開示した「2025年12月期決算短信〔IFRS〕(連結)」にて公表しました2025年12月期の連結業績予想と本日2026年2月13日に開示しました2025年12月期の実績値について、また、通期の個別業績において前期実績と当期実績についてそれぞれ差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、連結決算及び個別決算において減損損失を計上しましたので、併せてお知らせいたします。

記

i. 通期連結予想と実績値との差異

1. 2025年12月期通期連結予想と実績値との差異(2025年1月1日~2025年12月31日)

	売上収益	事業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A)	百万円 3,767	百万円 165	—	—	—	—
実績値(B)	2,873	101	△68	△137	△137	△6.31
増減額(B)-(A)	△893	△63	—	—	—	—
増減率(%)	△23.7	△38.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2024年12月期)	3,707	227	212	157	157	7.18

※1. 2025年12月期の通期予想については、売上収益と事業利益のみ発表しております。

2. 差異の理由

連結売上収益については、前期2024年12月期にストックビジネス事業において、MVNE/MVNOサービス主要取引先のビジネスモデルの転換に伴い発生した新規獲得数の減少や過去の保有回線における当該取引先の不適切な取り扱いにより発生した回線の解約件数増加等の影響が当期においても継続したことに加えて、通信機能付きAIドライブレコーダー「AORINO」において当期中の受注を予定していた複数の有力案件が翌期へ継続する見通しとなる等新規獲得が伸び悩んだ結果、これらの影響により期初の予想値から約6億3千百万円のマイナスが発生したこと、またシステム開発事業における主力ビジネスである受託開発について軟調に推移したことにより期初の予想値から約1億2千万円のマイナスが発生したこと、これらを主な要因として連結業績予想値と比較して減少しました。

連結事業利益については、上記に記載した連結売上収益の減少に伴う影響に加え、2026年1月16日付適時開示「株式会社アプリックスと株式会社グローバルキャストの持株会社体制への移行を前提とした株式交換に関する最終合意に関するお知らせ」でお知らせした株式会社グローバルキャストとの株式交換(以下「当該株式交換」)の実施に伴い、法務、財務及び税務に係るデューデリジェンス費用や弁護士費用、また株式交換比率算定費用等の当該株式交換に関連した費用や子会社のスマートモバイルコミュニケーションズ株式会

ご注意: 本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。

社（以下「SMC」）が提供する通信機能付 AI ドライブレコーダー「AORINO（アオリノ）」の在庫評価損等、一時的に発生した費用 46 百万円を計上したこと、これらを主な要因として連結事業利益についても連結業績予想値と比較して減少しました。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、上記に記載した連結売上収益及び連結事業利益の減少要因に加え、下記「iii. 減損損失の計上について」に記載のとおりリテールメディアプラットフォーム「BRIDGE AD」（以下「BRIDGE AD」）に関するソフトウェア及び SMC ののれんについて減損損失 193 百万円を「その他費用」に計上したことにより、いずれも前期実績値より減少しました。

ii. 個別業績の前期実績との差異について

1. 個別業績の前期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益 (※1)	当期純利益 (※1)	一株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (2024 年 12 月期)	百万円 586	百万円 △148	百万円 △159	百万円 △93	円 銭 △4.28
当期実績 (B) (2025 年 12 月期)	373	△222	77	29	1.34
増減額 (B-A)	△212	△74	236	122	—
増減率 (%)	△36.2	—	—	—	—

※1. 経常利益及び当期純利益が営業利益と比較して大きく増加している理由は、2025 年 12 月期において連結子会社より受取配当金 300 百万円を受領し、営業外収益に計上したことによるものです。

2. 差異の理由

売上高及び営業利益が前期実績値より減少した理由は、上記「i. 通期連結予想と実績値との差異 2. 差異の理由」に記載のとおり、システム開発事業における受託開発が軟調に推移したこと、また下記「iii. 減損損失の計上について」に記載したとおり、「BRIDGE AD」について当期 2025 年 12 月期に 1 億円の売上を見込んでいたものの、サービスインの遅延等により売上が計上されなかった等の要因によるものです。

iii. 減損損失の計上について

(1) ソフトウェア資産の減損（連結・個別）

2025 年 2 月 14 日付適時開示「新たな事業の開始に関するお知らせ」にて当社の新事業としてお知らせしたリテールメディアプラットフォーム「BRIDGE AD」について、サービスを開始した当期 2025 年 12 月期において当初 1 億円の売上を見込んでおりましたが、その後環境構築を含むシステム開発や関係各所との契約締結に想定以上の時間を要したことから、収益化のタイミングが当初予定より大幅に後ろ倒しになった結果、当期の売上計上には至りませんでした。また、ロケーションオーナーやアプリオーナーなどのニーズを踏まえ事業モデルの再定義を行うとともに、サービス性の向上等を目的とした PoC (Proof Of Concept、新しい概念やアイデアを実際の開発に移す前に実現可能性や効果を検証する工程) 開発に取り組んだこと等から、サービス開始について当初予定していた春頃から結果として 2025 年 10 月に遅延したとともに、収益化のタイミングが当初の予定から大幅に後ろ倒しとなり、2025 年 12 月期においては売上計上に至りませんでした。このような状況を踏まえ、「BRIDGE AD」に関連するソフトウェア資産について保守的な前提のもと減損テストを実施した結果、当社の連結決算（その他費用）及び個別決算（特別損失）において減損損失 80 百万円を計上しました。

(2) 子会社ののれんの減損（連結）

上記「i. 通期連結予想と実績値との差異 2. 差異の理由」に記載したとおり、SMC が提供する MVNE/MVNO サービスの契約ユーザー数減少等を起因として SMC の業績についても軟調傾向にあることを踏まえ、保守的な事業計画に基づき国際会計基準 (IFRS) に則った減損テストを実施した結果、連結決算においてのれんの減損損失として 113 百万円を「その他費用」に計上しました。

以上

ご注意：本リリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。